

特別支援教育推進計画 資料

資料	特別支援教育の対象の概念図（義務教育段階）	・・・ 1
資料Ⅰ 小・中学校の状況		
1	発達障がいのある児童生徒数	・・・ 2
2	LD等通級指導教室の利用率	・・・ 3
3	特別支援教育支援員の配置人数	・・・ 3
4	特別支援学級在籍児童生徒の推移	・・・ 4
5	平成28年度 中学校特別支援学級卒業生の進路状況	・・・ 5
6	中学校特別支援学級卒業生の進路状況	・・・ 6
7	特別支援学級在籍率の学年進行による推移（全国比較）	・・・ 6
資料Ⅱ 高校の状況		
1	高校における発達障がいに関する実態調査の結果	・・・ 7
資料Ⅲ 特別支援学校の状況		
1	特別支援学校児童生徒数の推移	・・・ 8
2	特別支援学校 各部の児童生徒数の推移	・・・ 8
3	高等部1年生の出身校種別生徒数の推移	・・・ 8
4	高等部卒業生（本科）の進路	・・・ 9
5	特別支援学校高等部卒業生の現場実習実施状況と就職率	・・・ 10
6	特別支援学校高等部分教室卒業生の進路状況	・・・ 10
7	特別支援学校への延べ相談件数	・・・ 10
8	特別支援学校 児童生徒の推移と今後の見込み	・・・ 11
9	特別支援学校における学校看護師による医療的ケア生の推移	・・・ 12
資料Ⅳ 地域連携・就学相談の状況		
1	市町村教育支援委員会の判断件数の推移	・・・ 13
2	学びの場の見直し実施状況	・・・ 13
3	特別支援学校児童生徒の居住地校交流の実施状況	・・・ 14
4	副次的な学籍（副学籍）を実施している市町村	・・・ 14

特別支援教育の対象の概念図(H28)

〔義務教育段階〕

義務教育段階の全児童生徒数
999万人

特別支援学校

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱
聴覚障害 肢体不自由

0.71%
(約7万1千人)

小学校・中学校

特別支援学級

視覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障害
聴覚障害 病弱・身体虚弱
知的障害 言語障害

2.18%
(約21万8千人)

通常の学級

通級による指導

視覚障害 情緒障害
聴覚障害 自閉症
言語障害 学習障害(LD)
肢体不自由 注意欠陥多動性障害(ADHD)
病弱・身体虚弱

0.98%
(約9万8千人)

3.88%
(約38万7千人)

発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒 6.5%程度の在籍率(※)

※ この数値は、平成24年度に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものではない。

長野県の概況(H28)

〔義務教育段階〕

長野県義務教育段階の全児童生徒数
173,376人

特別支援学校

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱
聴覚障害 肢体不自由

0.78%
(1,357人)

小学校・中学校

特別支援学級

視覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障がい
聴覚障害 病弱・身体虚弱
知的障害 言語障害

3.60%
(6,246人)

通常の学級

通級による指導

視覚障害 情緒障害
聴覚障害 自閉症
言語障害 学習障害(LD)
肢体不自由 注意欠陥多動性障害(ADHD)
病弱・身体虚弱

0.67%
(1,165人)

5.06%
(8,065人)

発達障がいの診断等(※)を受けている児童生徒

※ 医師の診断や臨床心理士、児童相談所等の専門機関の判定による

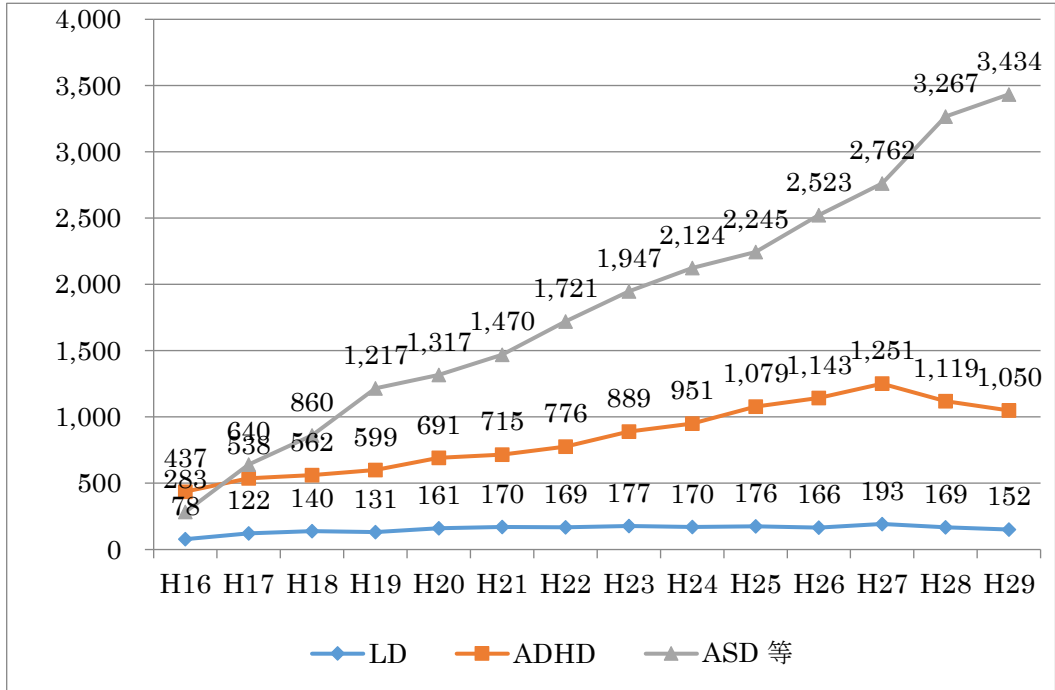
3.98%
(6,907人)

資料 I 小・中学校の状況

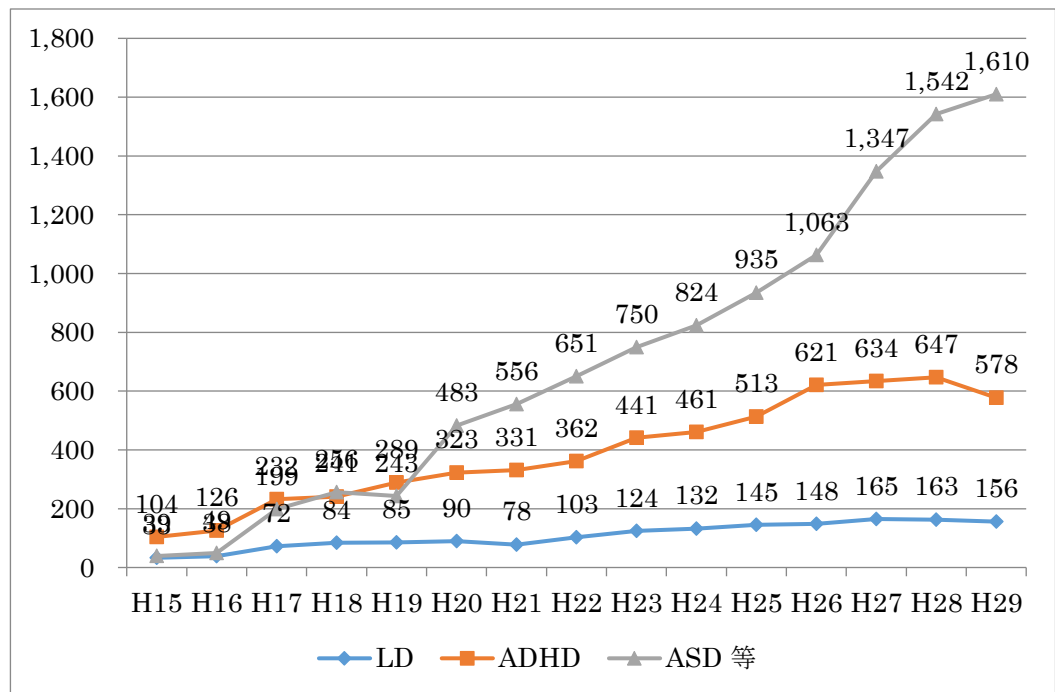
1 発達障がいの診断等のある児童生徒数

○発達障がいの診断等のある児童生徒は、年々増え続けている。平成 29 年度の発達障がいの診断等のある児童生徒の割合は 4.24%となっている。

小学校



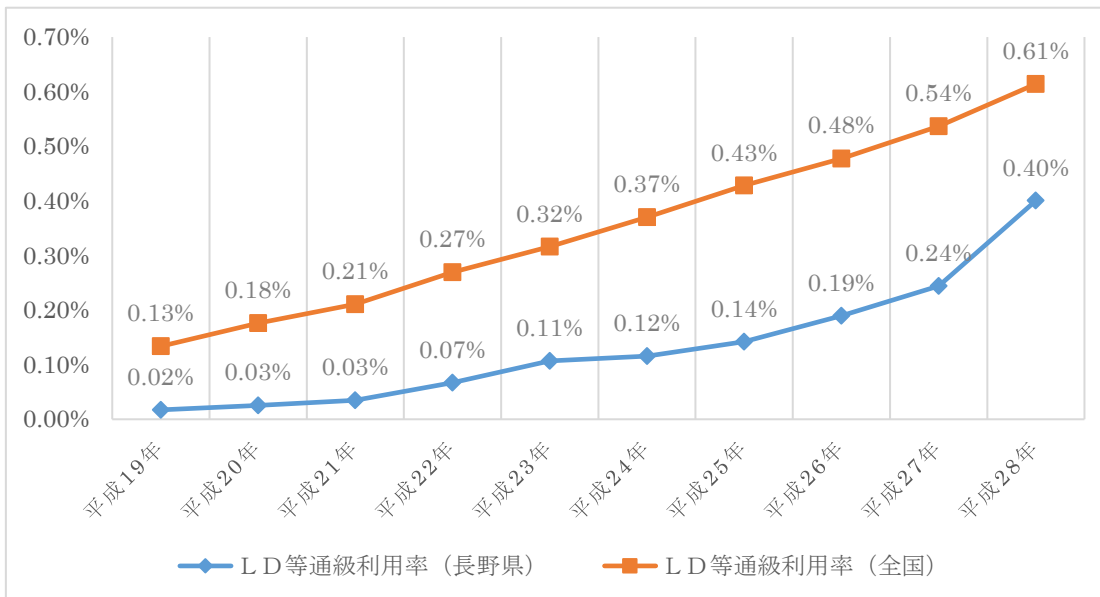
中学校



・学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症等（ASD等）の数値は、本県独自調査による。
 （ASD等には、広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群、反抗挑戦性障害、複数の診断等を含む。）

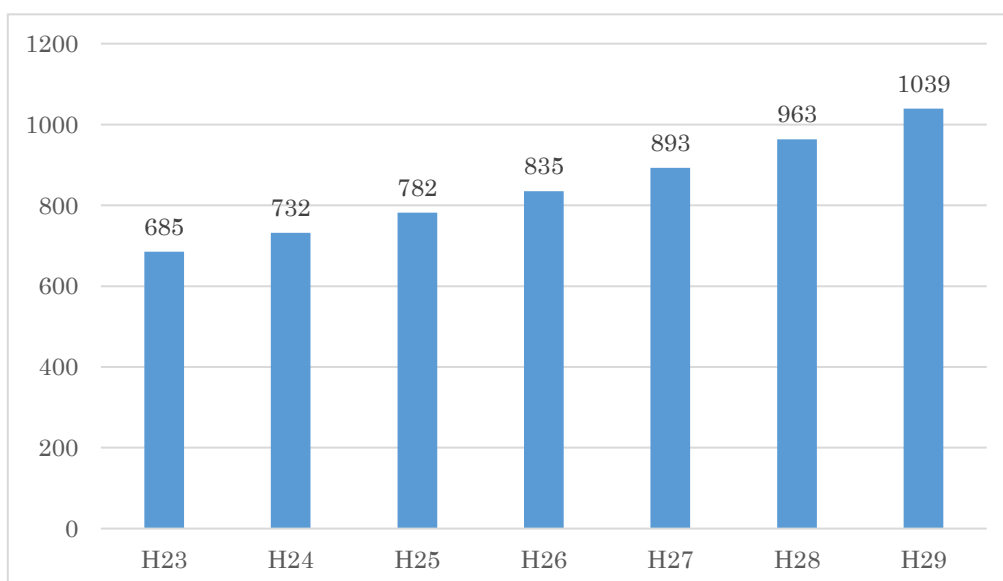
2 LD等通級指導教室の利用率

○年々、在籍率が増加しているものの、全国に比して在籍率が低い。



3 特別支援教育支援員の配置人数

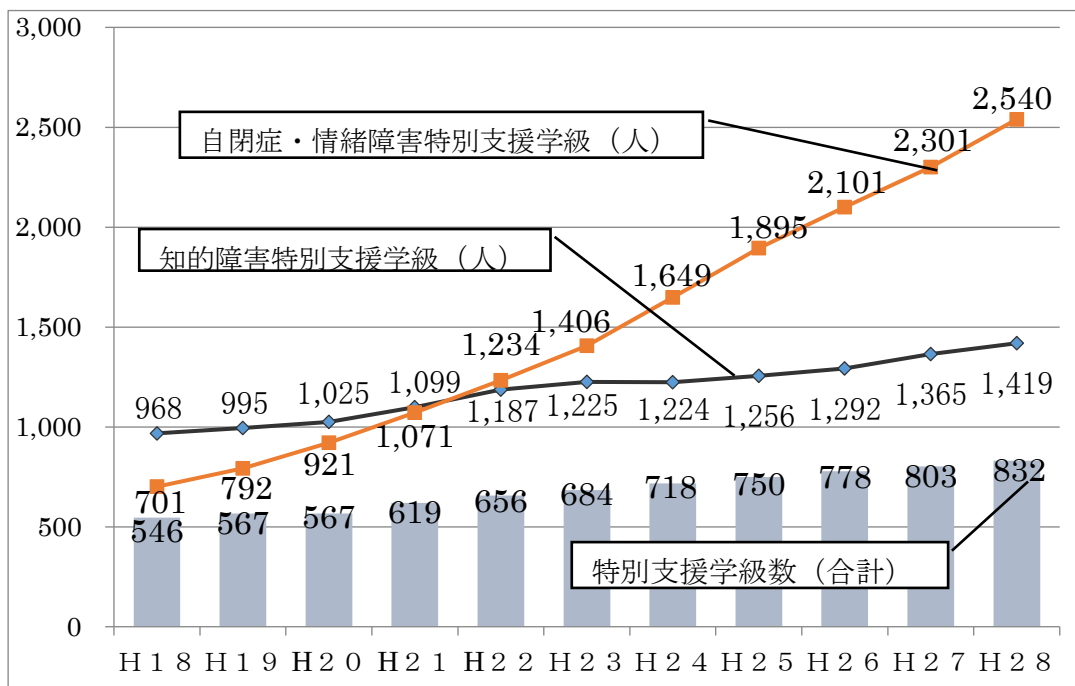
○市町村において、多くの特別支援教育支援員が配置されており、その数は年々増加している。



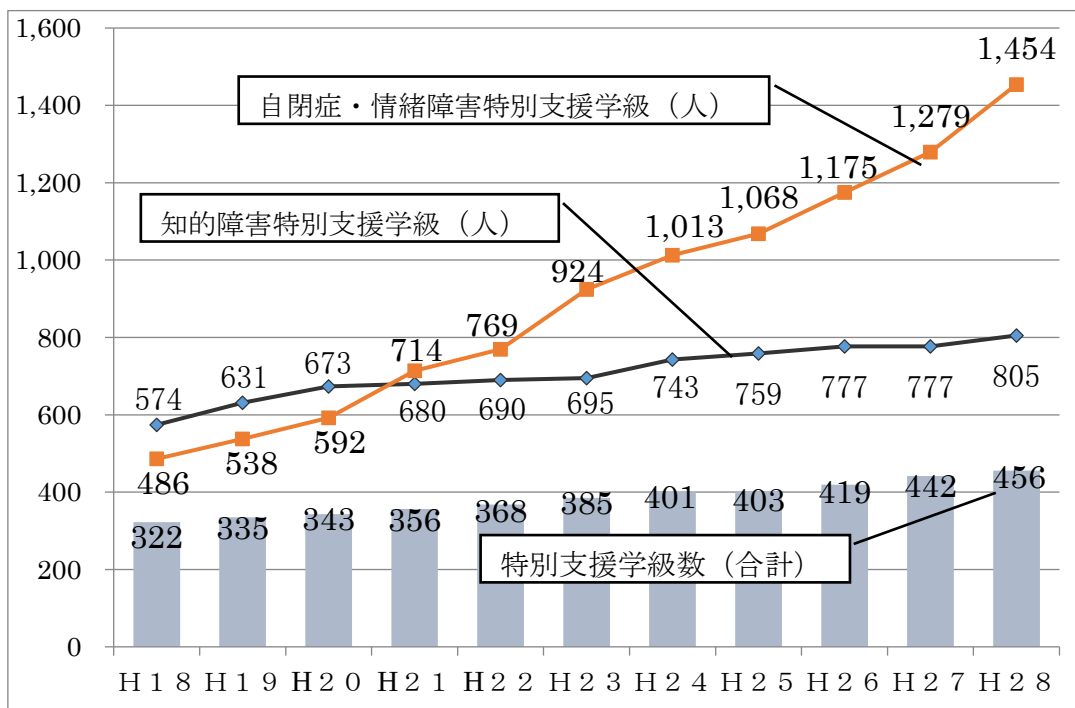
4 特別支援学級在籍児童生徒の推移

○特に「自閉症・情緒障害特別支援学級」に在籍する児童生徒が、年々増え続けており、小学校は全国2位、中学校は全国1位。(H29)

小学校

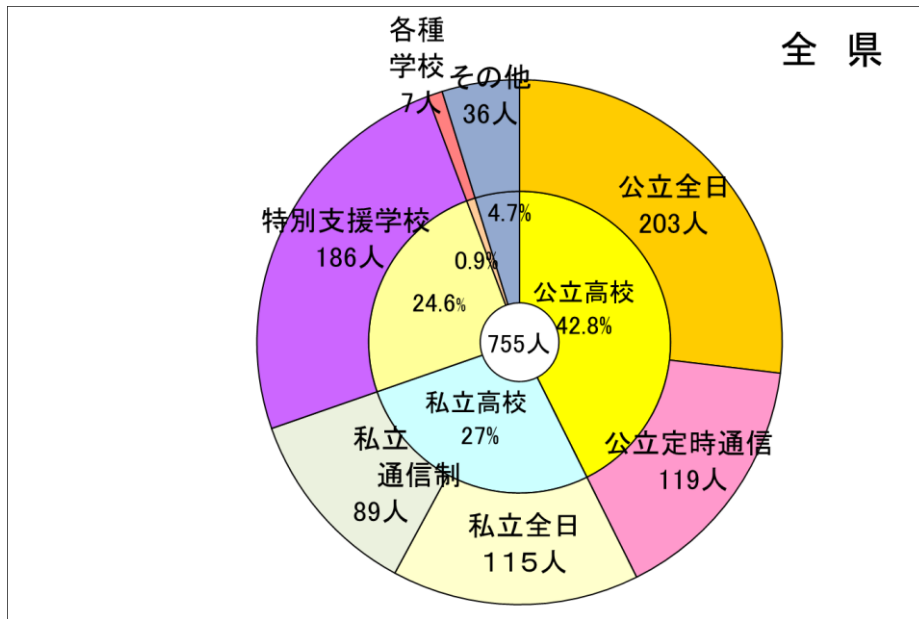


中学校

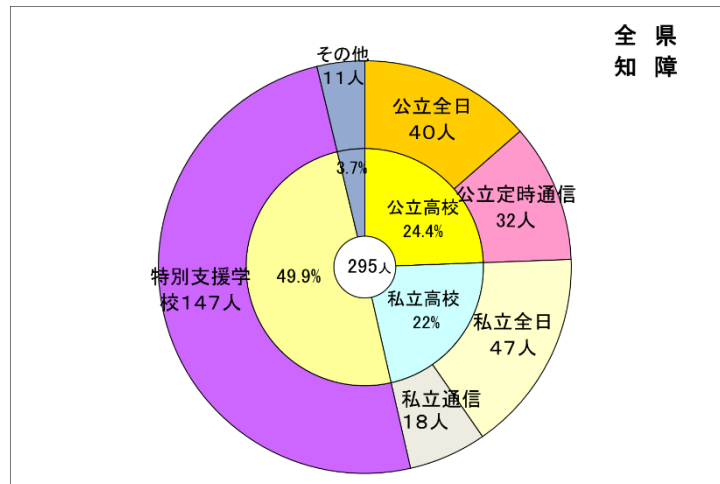


5 平成 28 年度 中学校特別支援学級卒業生の進路状況

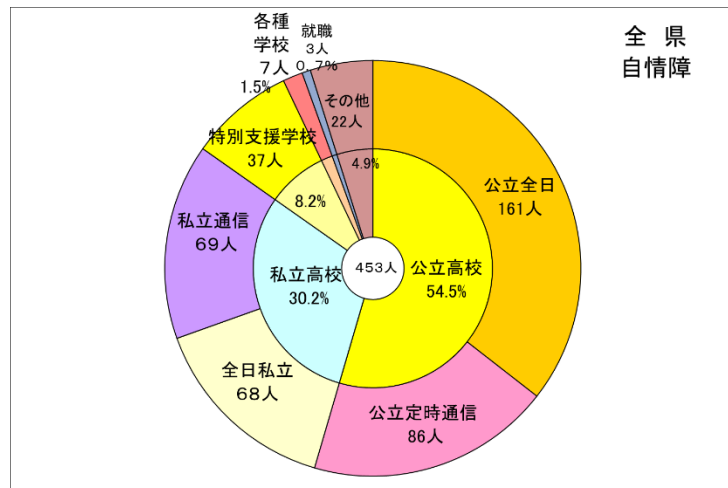
○特別支援学級を卒業後、高等学校へ進学する生徒が多い。(全国平均 H28 39.1% 全国 2位)



知的障害特別支援学級

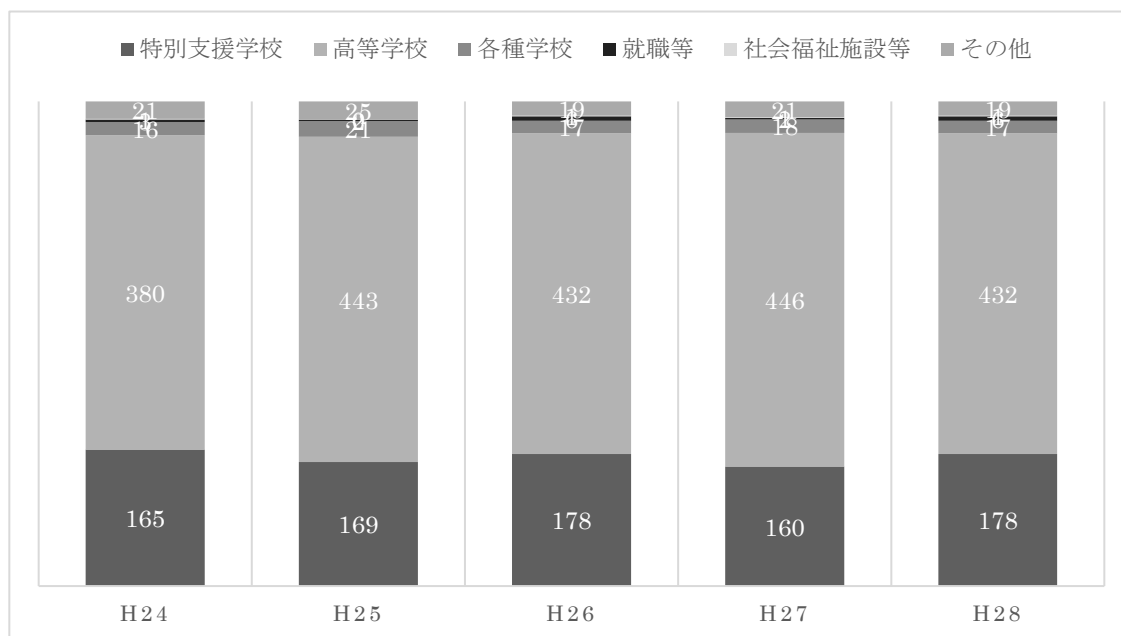


自閉症・
情緒障害特別支援学級



6 中学校特別支援学級卒業生の進路状況

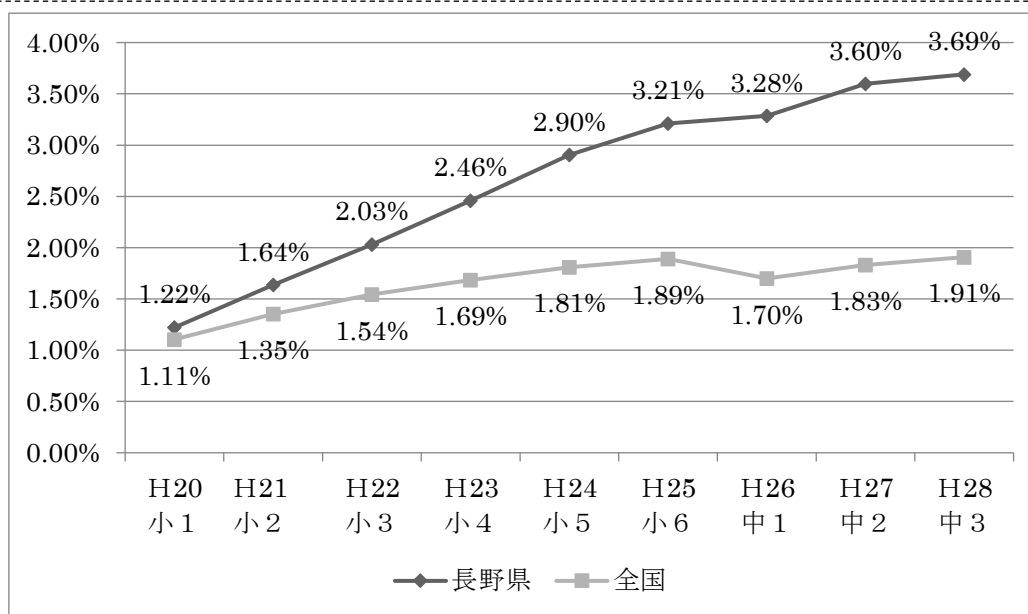
○毎年、中学校特別支援学級卒業生の6割以上が高等学校に進学している。



7 特別支援学級在籍率の学年進行による推移（全国比較）

[平成20年度に小学校に入学し、平成28年度に中学校を卒業した学年の年度ごとの在籍率の推移]

○H20年度の入学時は全国と同程度だが、その後、通常の学級から特別支援学級に移る率が全国に比して高く、学年を追うごとに差が開いている。

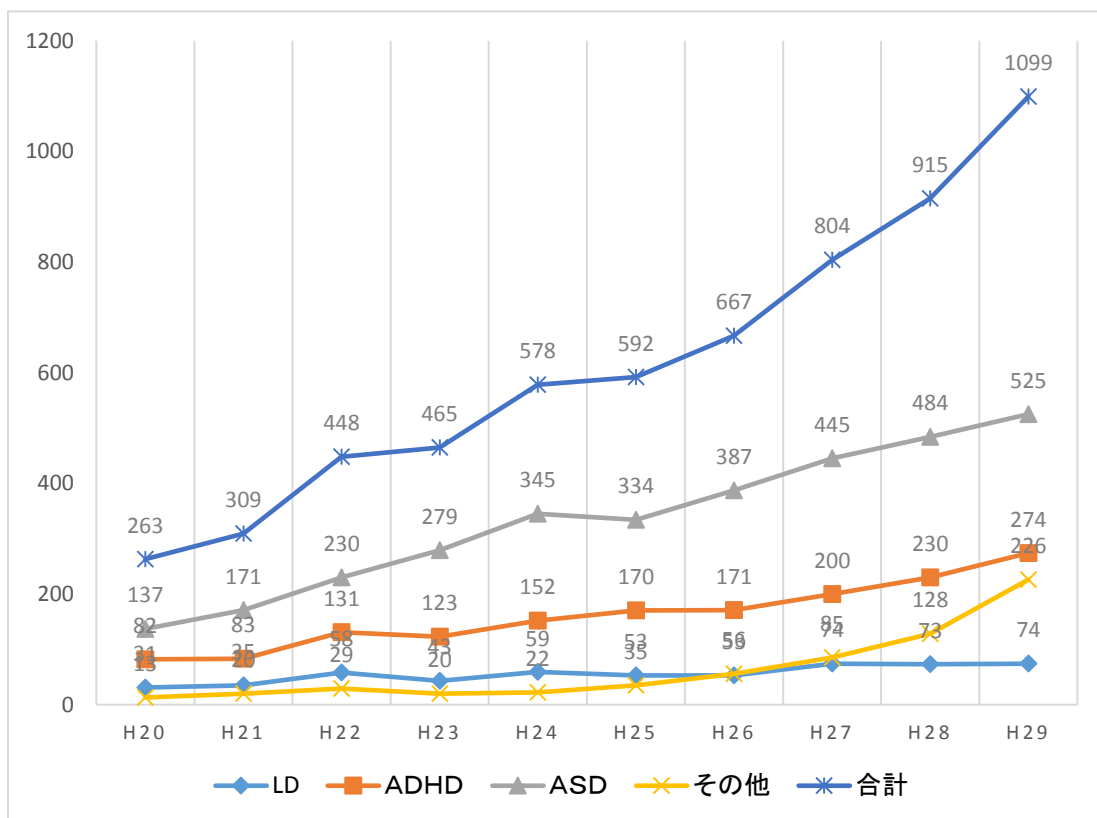


資料Ⅱ 高校の状況

1 高校における発達障がいに関する実態調査の結果

○高校においても、発達障がいの診断等がある生徒は増え続けており、医師による診談のある生徒は2.22%（H29）。すべての定時制、通信制高校に発達障がいの診断のある生徒が在籍している。

(人)

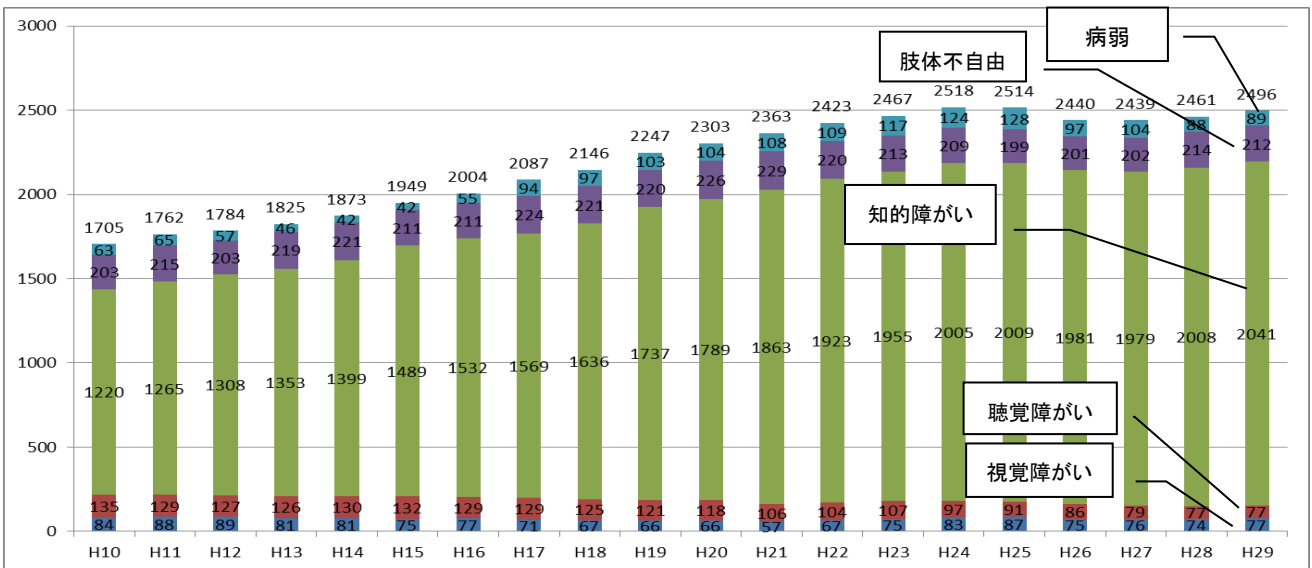


・学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症等（ASD等）の数値は、本県独自調査による。（ASD等には、広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群、反抗挑戦性障害、複数の診断等を含む。）

資料Ⅲ 特別支援学校の状況

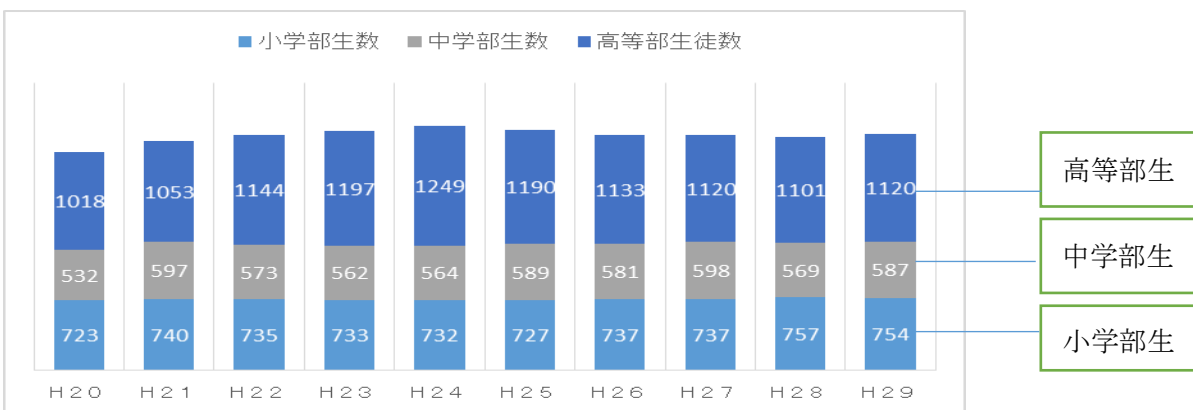
1 特別支援学校児童生徒数の推移

○視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由・病弱特別支援学校の児童生徒数は、ほぼ横ばい。知的障がい特別支援学校児童生徒は微増傾向。



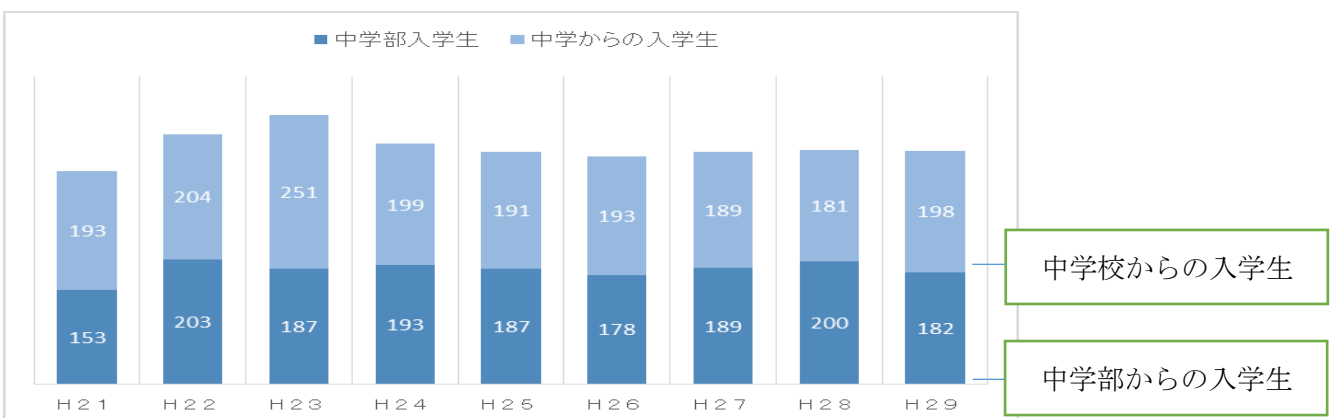
2 特別支援学校 各部の児童生徒数の推移

○高等部生が占める割合が高い。



3 高等部1年生の出身校種別生徒数の推移

○高等部に入学する生徒の約半数が、中学校からの入学生である。

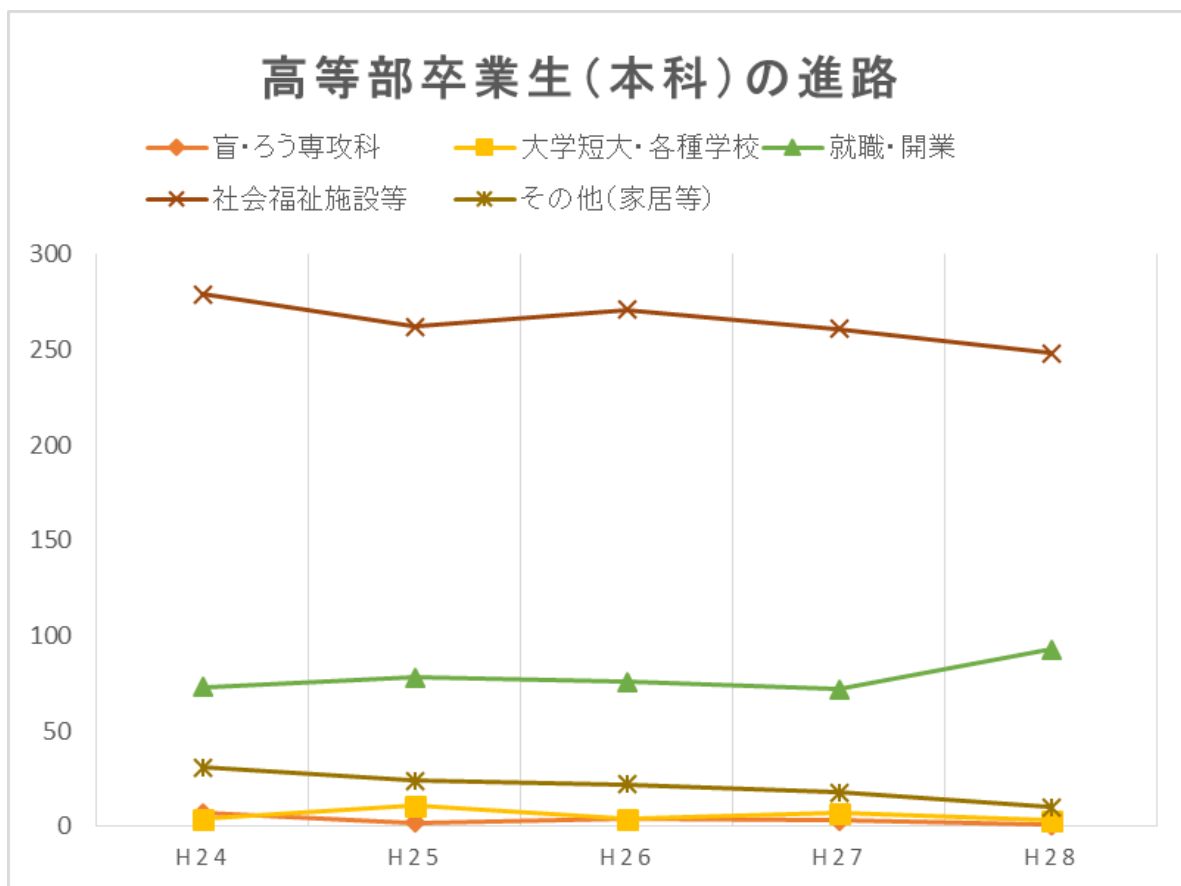


4 高等部卒業生（本科）の進路

○卒業生の約7割の進路先が社会福祉施設等である。一般就労をする生徒は約2割で推移している。

(単位：人)

進路	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
盲・ろう専攻科	7 (1.8%)	2 (0.5%)	4 (1.0%)	3 (0.8%)	1 (0.3%)
大学短大・各種学校	4 (1.0%)	11 (2.9%)	4 (1.0%)	7 (1.9%)	3 (0.8%)
就職・開業	73 (18.5%)	78 (20.7%)	76 (20.2%)	72 (19.8%)	93 (26.2%)
社会福祉施設等	279 (70.8%)	262 (69.5%)	271 (71.9%)	261 (71.9%)	248 (69.9%)
その他 家居等	31 (7.9%)	24 (6.0%)	22 (5.9%)	18 (5.0%)	10 (2.8%)
計	394	377	377	363	355



5 特別支援学校高等部卒業生の現場実習実施状況と就職率

○就職率は全国平均を下回っている。現場実習での実習者数、一般就労者数ともほぼ横倍で推移。

		H24	H25	H26	H27	H28
長野県	卒業者数	394 人	377 人	377 人	363 人	355 人
	現場実習実施者数	128 人	134 人	126 人	116 人	120 人
	一般就労者数	73 人	78 人	76 人	72 人	93 人
	現場実習実施者の就職率	57.0%	58.2%	60.3%	62.0%	77.5%
	就職率	18.5%	20.7%	20.2%	19.8%	26.2%
全国	就職率	27.7%	28.4%	28.4%	28.4%	30.1%

6 特別支援学校高等部分教室卒業生の進路状況

○高等部分教室の一般就労率は高い。

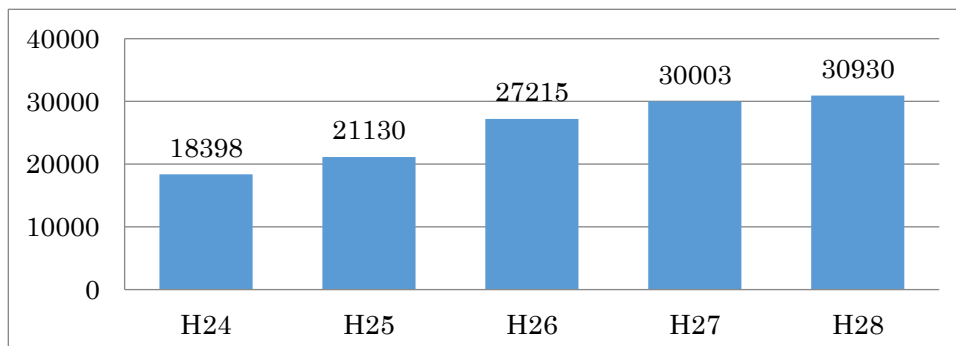
	H25	H26	H27	H28
卒業生	20 人	23 人	28 人	30 人
一般就労者数	14 人	19 人	21 人	25 人
就職率	70%	82.6%	75%	83.3%

※高等部分教室

学校名	分教室名	設置場所	設置
稲荷山養護学校	更級分教室	更級農業高等学校	H17
長野養護学校	朝陽教室	長野盲学校	H22
安曇養護学校	あづみ野分教室	南安曇農業高等学校	H22
伊那養護学校	中の原分教室	上伊那農業高等学校	H24
小諸養護学校	うすだ分教室	佐久平総合技術高等学校（臼田キャンパス）	H26
長野養護学校	すざか分教室	須坂創成高等学校（須商キャンパス）	H28
松本養護学校	しなの木教室	松本盲学校	H28

7 特別支援学校への延べ相談件数

○就学相談（判断）件数は増加し続けている。

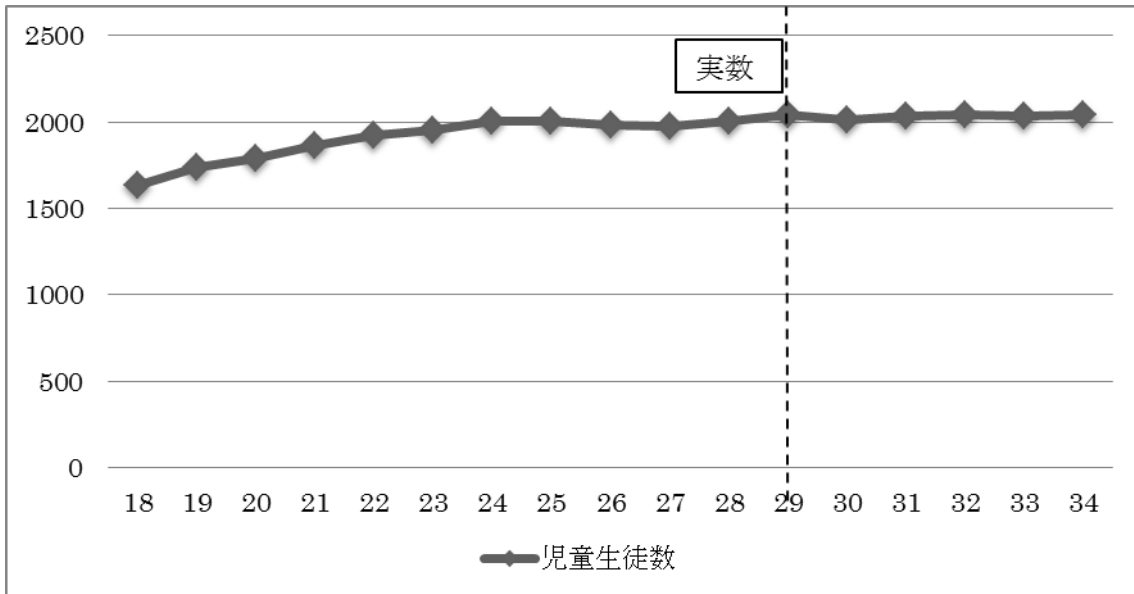


8 特別支援学校 児童生徒数の推移と今後の見込み

○知的障害特別支援学校は微増傾向。視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱特別支援学校はほぼ横ばい傾向。

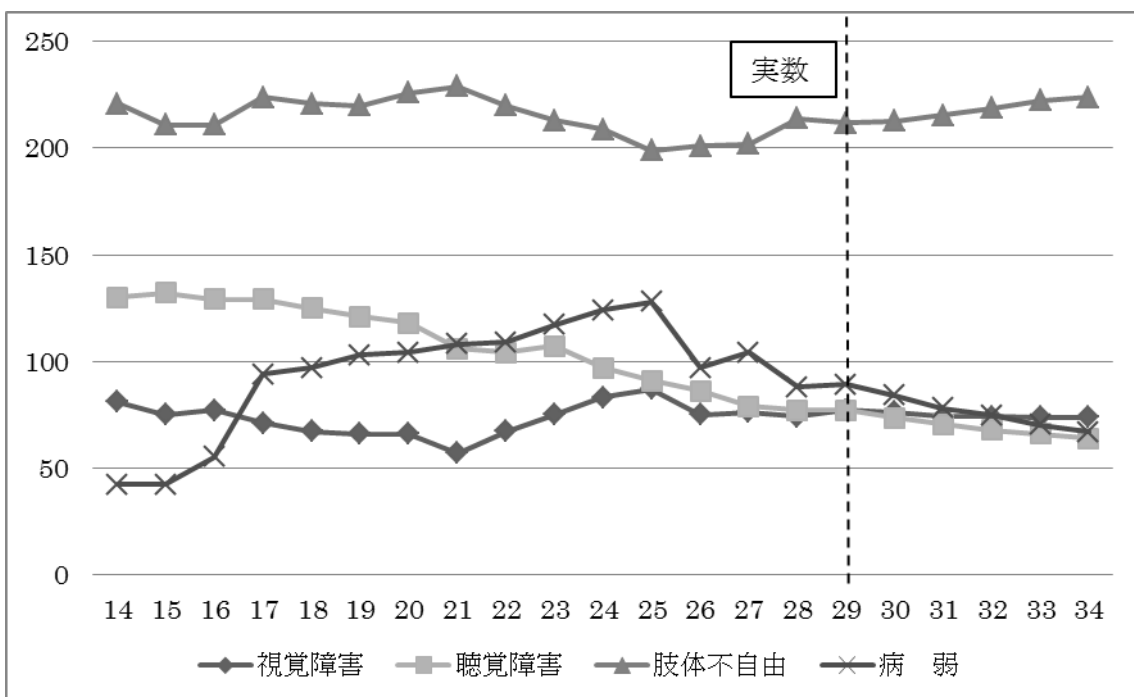
(1) 知的障がい特別支援学校

(人)



(2) 視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱の特別支援学校

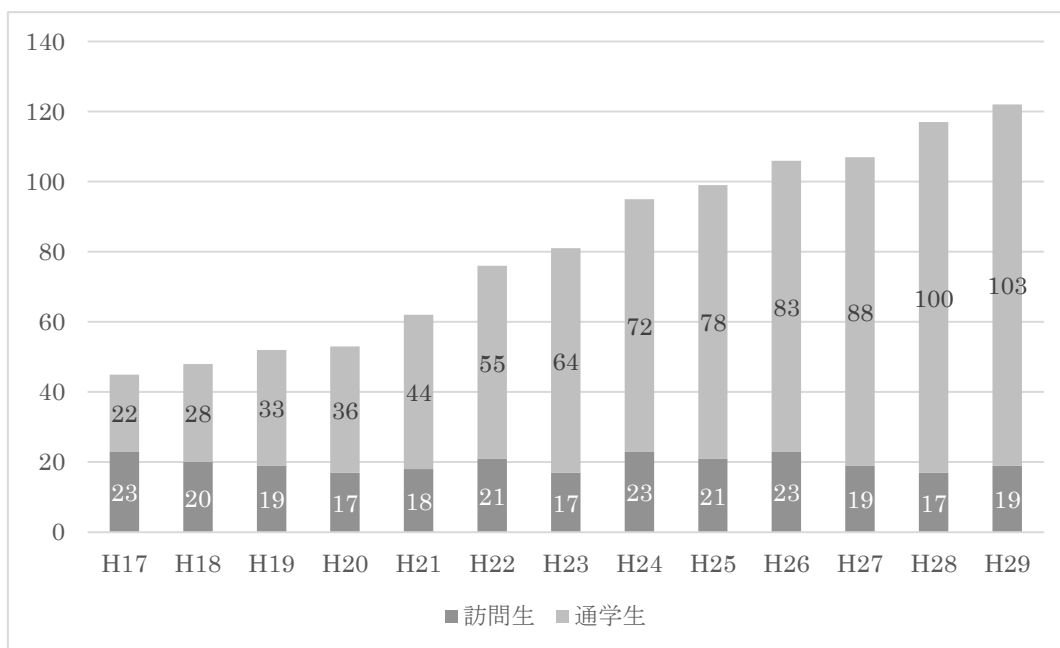
(人)



9 特別支援学校における学校看護師による医療的ケア生の推移

○特別支援学校における医療的ケア生は年々増加しており、特に通学生が増加している。(H29 17校に在籍)

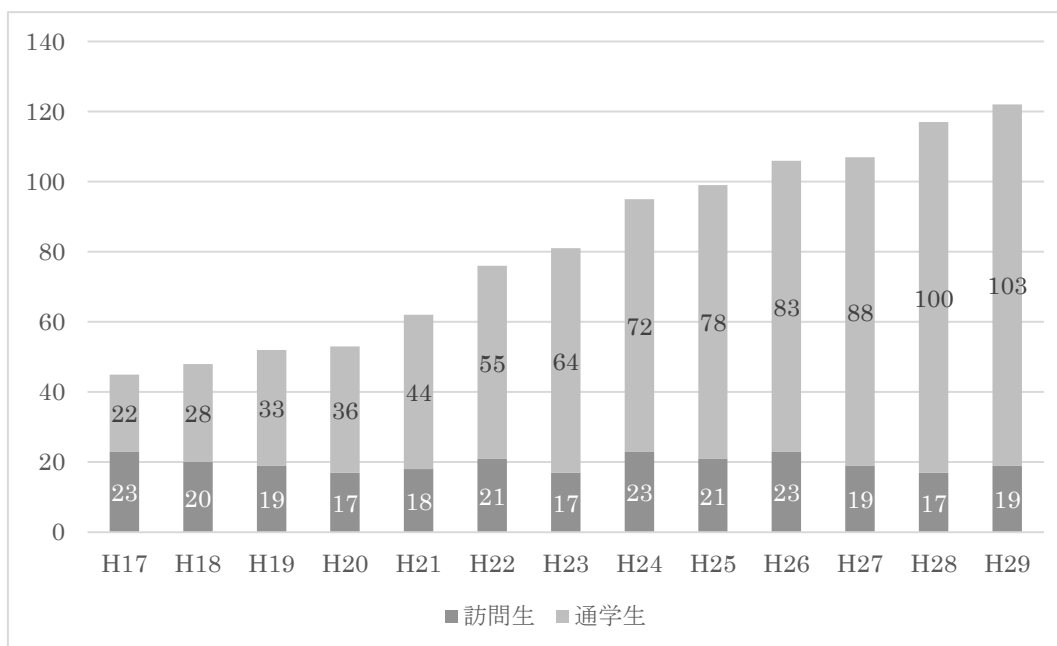
(人)



9 特別支援学校における学校看護師による医療的ケア生の推移

○特別支援学校における医療的ケア生は年々増加しており、特に通学生が増加している。(H29 17校に在籍)

(人)

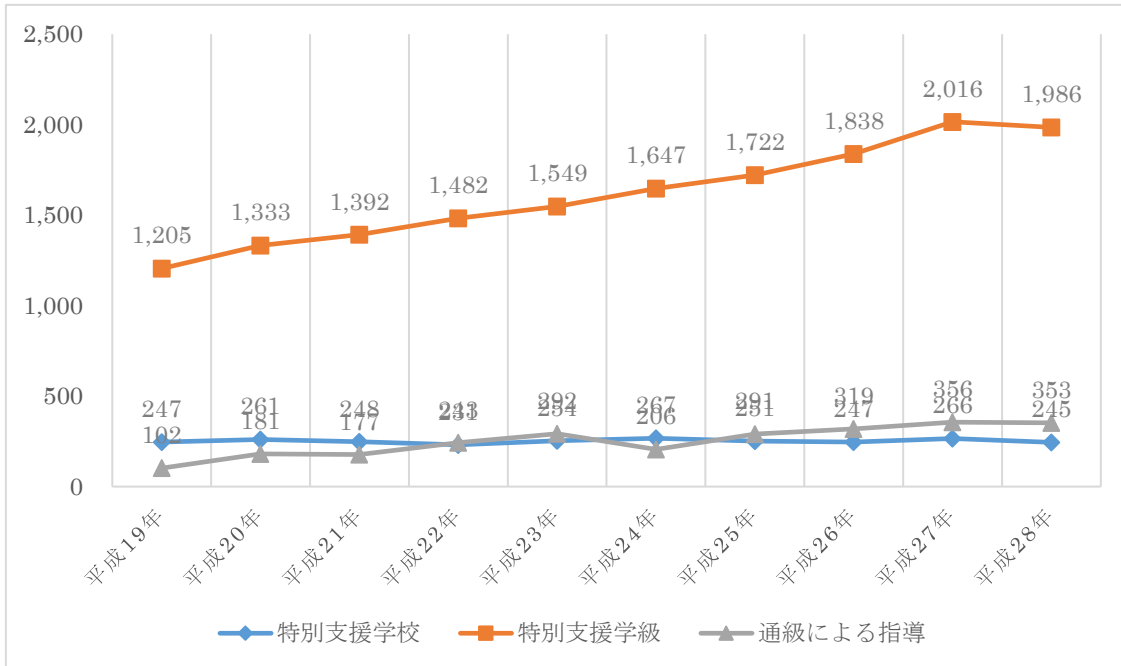


資料Ⅳ 地域連携・就学相談の状況

1 市町村教育支援委員会の判断件数の推移

○就学相談（判断）件数は増加傾向である。

(件)

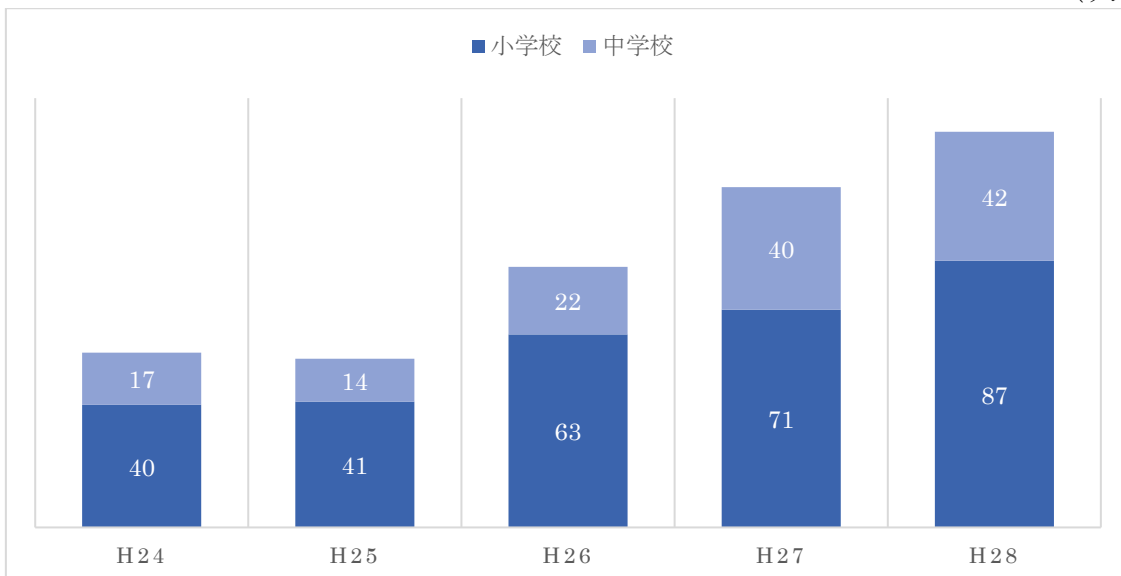


2 学びの場の見直し実施状況

(自閉症・情緒障害特別支援学級から通常学級へ学びの場を変更した児童生徒数)

○学びの場の見直しが進んでいる。

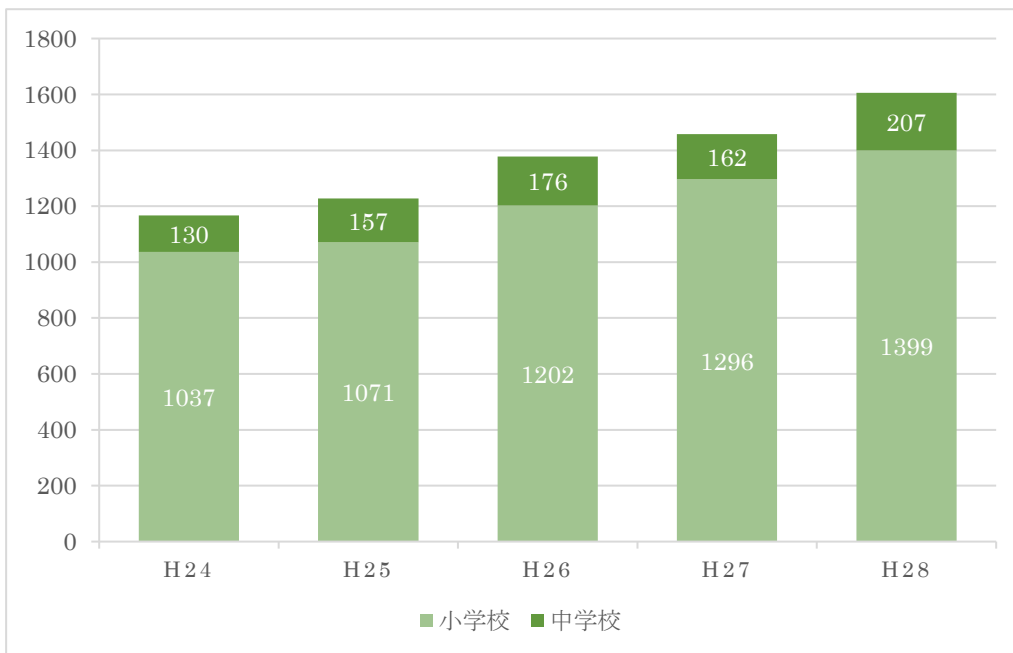
(人)



3 特別支援学校児童生徒の居住地校交流の実施状況

○特別支援学校の児童生徒で、居住地校との交流及び共同学習を実施する児童生徒が増えている。

(回)



4 副次的な学籍（副学籍）を実施している市町村

○副次的な学籍に取り組む市町村が、年々増えている。

